

(氏名) 矢野修一	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>◇論文執筆； 岡本哲史・小池洋一編著『経済学のパラレルワールド』（新評論、2019年11月刊）に、「ハーシュマンと不確実性／可能性への視座」を寄稿（249-274頁）。</p>	
<p>◇学術講演会； 佐賀大学アジア協創研究プロジェクトセミナーにおいて「マルチラテラリズムの再評価」と題する講演（大学教員・大学院生等向け）を行った（2019年10月31日、佐賀大学）。</p>	
<p>◇学会座長； 日本国際経済学会第78回全国大会（2019年9月28日・29日、ジェトロ・アジア経済研究所）の自由論題セッション「国際政治経済学」において座長を務め、3つの報告に関する発表・討論を円滑に進めた。</p>	
<p>◇学会コメント； ケインズ学会第9回年次大会において、野下保利氏（国士舘大学）の報告「FSBの展開と苦闘—グローバル証券市場管理の教訓を求めて」へのコメントを行った（2019年11月30日、明治大学）。</p>	
<p>◇海外視察； 地域科学研究所プロジェクト研究の一環としてベトナム・ハノイで東邦工業、馬場家具の現地法人を視察した（2019年9月4日～8日）。視察概要は、『地域科学研究所ニューズレター』No.13（2020年1月刊）に「ベトナム、ただいま沸騰中」と題して寄稿するとともに、公開研究会で発表（2020年2月19日、高経大）。</p>	
<p>◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導； 2010年度～2018年度に続き、日本企業のケーススタディを柱とする「高大コラボゼミ」を企画し各種指導を行った（4月16日・23日、5月7日・28日、6月11日・18日、7月9日、8月27日、9月3日）。経営支援NPOクラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による富士電機、富士通、ANA、三井物産、日清オイリオ、鉄人化計画各社の訪問・インタビュー（8月9日）をアレンジし、9月21日の成果発表会（高経大731教室）につなげた（自身は富士電機担当）。 成果発表会当日は、高経大・高経附の現役大学生・高校生のほか、コラボゼミを経験した両校卒業生、高・大教職員、保護者、一般市民、マスコミ関係者等、数百名が出席した。</p>	
<p>◇『高大コラボゼミ 2019年度成果報告書』の編集補助； 2019年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生の感想・コメントをとりまとめ、成果報告書の編集を補助した。報告書は関係各方面に配布された。</p>	
<p>◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第27号（2020年3月刊）の監修および編集； 1994年3月の創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2019年度も総勢16名の卒業論文の執筆を指導し、420頁を超える卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。</p>	
<p>◇授業評価アンケート結果（科目名・ポイント・前回比）； 世界経済論Ⅰ：91.8（↓3.8）、世界経済論Ⅱ：93.3（↑0.3） アジア経済論：94.2（↓2.4）</p>	

2 その他の事項

◇高校生向け講演；

高崎市立高崎経済大学附属高校 1 年生向けに、ディベートの方法論や考え方について講演を行った（5 月 24 日、高経大）。後日、行われたディベート大会でジャッジを務めた（10 月 29 日、高経附）。

◇講演①；

前橋市「明寿大学」（高齢者教室）において「トランプ政権と日本経済」と題する講演を行った（5 月 13 日、前橋中央公民館ホール）。

◇講演②；

栃木県生活協同組合連合会「役員・幹部職員定期学習会」において「戦後であり続けるための日本経済論」と題する講演を行った（10 月 1 日、パーティとちぎ男女共同参画センター）。

◇講演③；

佐賀大学連続講義「アジアコミュニティ論」において、「米中貿易摩擦をこえて」と題する講演（経済学部を中心とした学部学生向け）を行った（10 月 31 日、佐賀大学）。

◇講演④；

高崎経済大学の市民向け公開講座において「米中摩擦と日本経済」と題する講演を行った（11 月 19 日、高経大 6 号館）。

◇学術講演会等のアレンジ；

高崎経済大学経済学会「学生向け学習・研究支援プログラム」として、菊池健介氏（ジャイチ元理事長）「アジアに生きる」（2019 年 11 月 8 日、高経大 2 号館）、中西大輔氏（滋賀県職員）「わらじは何足？—公務員の仕事」（2020 年 1 月 10 日、高経大図書館ホール）の 2 つの講演会をアレンジした。

◇群馬県立前橋女子高校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）運営指導委員；

運営指導委員会（7 月 23 日、1 月 25 日）、SSH 成果発表会（1 月 25 日）に参加し助言や意見交換を行った。

◇ポシビリズム研究会主宰；

1998 年から活動を続けるポシビリズム研究会（ゼミ卒業生との研究交流、共同研究を目的とする）は実質的には開店休業状態だったが、日本平和学会（2019 年 6 月 22 日・23 日、福島大学）や「世界経済論」合同ゼミ（2019 年 12 月 7 日、京都大学芝蘭会館）の機会を利用し、メンバーと意見交換等を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、引き続き様々な分野の研究者と交流しながら、主流派経済学の「国際経済論」の枠に収まりきらない「世界経済論」の研究を深める。

教育面では、（今年度は少し評価ポイントを下げた科目もあったが）例年通り、授業の高評価（学部平均点+10 ポイント）を維持できるよう、講義内容の学問的基盤をさらに強化するとともに、授業の準備に努める。

県外出身者が多く、中期日程入試の定員が大きな本学、すなわち「不安」と「不満」を抱きがちな学生にあふれる「全国型公立大学」において、充実したゼミ活動などを通じ、次世代を担う若者に向けて「3つの出会い」（「人との出会い」「ものの見方・考え方との出会い」「新たな自分との出会い」）の場を提供し続けたい。